

### 武漢都市圏で、全国初の廃棄電池回収ネットワークづくりー億元規模の投資：

ボタン電池一個を水に入れると、60万リットルの水が汚染されると言われている。しかし、湖北省の90%の家庭用廃棄電池はまだ有効な回収と処理が行われていない。7月1日、武漢市青山区は全省のトップを切って、210ヶ所の住宅団地、100以上の行政機関、小中学校や病院デパートに350ヶ所の廃棄電池回収ステーションを設置した。ここに、全国に初の廃棄電池回収ネットワークづくりが武漢都市圏からスタートすることになった。

武漢市の長年にわたる努力によって、廃棄電池回収の道が開かれた。回収と処理の間のボトルネックを解決するため、今年3月、湖北省環境保全局より都市圏内9都市が、廃棄電池を一斉に集中的に処理するよう提起。これは試みである。目下全国的にも前例のない。

本プロジェクトの投資額は1億元を超え、民間、市場活力を活用し、都市圏内に廃棄電池の回収システム、分別システムや循環型リサイクル工場を運用し、無限の「都市鉱山」を作り上げることによって、都市圏内の廃棄電池の回収リサイクルレベルを国際的な先進レベルにまで引き上げたいとしている。今後3年から5年にかけて、圏内において、3万個の廃棄電池回収箱、1万ヶ所の回収ステーション及び150ヶ所の電子廃棄物の回収センターを建設する予定である。年間処理量3万トンの電子廃棄物の分別工場によって、電子廃棄物の無公害化、資源化と大規模な処理を実現させることになっている。(7月2日)

### 2010年までに全国「環境保全都市」指定都市ゼロを返上、湖北省の重点努力目標、宜昌が年内に審査される可能性：

7月1日、湖北省が環境保全「第十一ヵ計画」を省内に発表した。2010年までに、湖北省は1つか2つの省轄市を国家環境保全モデル都市基準に達するよう努力し、「国家環境モデル都市」の指定ゼロの返上に向けて取り組む。

国家環境保全モデル都市は都市の「グリーン名刺」と称され、1997年以来、全国において67の都市がこの名誉を獲得したが、湖北省の都市はまだこの名誉を渡していない。

湖北省の武漢、宜昌、襄樊等の都市は既に国家環境保全部に国家環境保全都市の申請を出しており、宜昌が今年審査される可能性が高いと省環境保全局の関係者が語った。

(7月2日)